



医療法人社団 くわのみ会
桑園整形外科

<http://www.dr-azuma.net/>

**変形性膝関節症では
まず保存療法を実施**

桑園整形外科は、札幌駅から1駅のJR桑園駅を降りて徒歩4分。東裕隆理事長は膝関節疾患に長年たずさわってきた医師として知られ、なかでも変形性膝関節症に対する人工膝関節置換術と、前十字靭帯損傷の治療で多くの実績をもつ。

変形性膝関節症は60歳を超えると半数以上が経験、発症者の8割を女性が占めると言われている。おもな症状は関節の痛みで、悪化すると歩行が困難になったり、何もしな



理事長・院長

東 裕隆

あずま ひろたか / 1992年、北海道大学医学部卒業後、市立札幌病院救急部勤務。北海道大学医学部附属病院整形外科勤務。カルガリー大学（カナダ）留学。市立札幌病院整形外科副院長を経て、2007年10月に桑園整形外科を開設。2011年医療法人社団くわのみ会を設立し、理事長・院長となる。日本整形外科学会認定整形外科専門医。

**患者への負担軽減に努める
小皮切で行う人工膝関節置換術**

札幌市に位置する桑園整形外科の東裕隆理事長・院長は、膝関節疾患に長年たずさわってきた医師である。なかでも人工関節置換術では、日本で小皮切（最小侵襲手術）を先駆的に取り入れ、数多くの手術を行う。

くても痛むようになったりする。痛みが続くと、集中できない、安眠できないなど、日常生活にも悪影響が生じます。また、痛みがひどいからと歩かなくなり、その結果筋力が落ちて、さらに悪化するという悪循環に陥る方もいます」と東理事長は説明する。

治療においては、手術をしない保存療法を最優先とし、筋力訓練や消炎鎮痛剤の使用、ヒアルロン酸の注射、日常生活活動の指導などを行う。「手術は体に負担がかかるので、まずは保存療法で症状の改善に努めます。それでも効

**700例を超える
小皮切手術を実施**

果がなく、日常生活に支障をきたしたり、痛みに耐えられなかったりする患者さんには、小皮切（最小侵襲手術）による人工膝関節置換術を行っています」

小皮切では膝蓋骨の側面から9cm以内の切開で手術を行い、筋肉や腱の切開も最小限にとどめるため、身体面での負担が少

ない。東理事長は日本に小皮切が導入された直後の2002年7月から小皮切による手術を



「膝関節は、その構造や可動域の広さから、股関節などに比べて術後のリハビリテーションの負担が大きくなります。小さい切開で筋肉を傷つけないように手術を行うことで、リハビリがよりスムーズに進むことをめざしています」

小皮切では術後の回復が早くなるため、入院期間は2〜3週間

で済む。さらに、傷口が小さいことで精神的負担が軽減されるといふメリットもある。

2011年1月〜12月の人工関節置換術は179例で、そのうち95%以上を小皮切で実施。累積症例数は700例（2007年10月〜2011年12月）を超え、全道のみならず本州や海外からも患者が訪れる。また、全国に2カ所ある人工膝関節研修施設の1つにも指定

されており、全国から訪れる整形外科医に的確な手術法の指導を行っている。

患者の負担を減らすことを重視する姿勢は、その他の治療でも一貫しており、靭帯再健術やアキレス腱断裂、骨折の治療にも可能な限り小皮切を実施。

「診療では患者さんの病態把握はもちろんのこと、生活習慣や要望などのお話をよく聞いて、丁寧な説明を心がけています。膝の痛みで悩まれている方は、お気軽に相談していただきたいと思います」

HOSPITAL DATA



医療法人社団 くわのみ会
桑園整形外科

所在地 札幌市中央区北8条西16-28-30

電話 011-633-3636

受付時間 平日 9:00~12:00
14:00~18:00

休診日 土曜日 9:00~12:00
日・祝日

診療科目 整形外科・リウマチ科・リハビリ
テーション科・麻酔科（福原世也）

交通 JR桑園駅より徒歩4分
無料送迎バス運行中



クリーンルームで小皮切の人工膝関節置換術を行う